



2023年8月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)



2023年1月6日

上場会社名 日本BS放送株式会社 上場取引所 東
 コード番号 9414 URL <https://www.bs11.jp>
 代表者(役職名) 代表取締役社長 社長執行役員 (氏名) 近藤 和行
 問合せ先責任者(役職名) 取締役 常務執行役員 (氏名) 平山 直樹 (TEL) 03(3518)1900
 四半期報告書提出予定日 2023年1月11日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年8月期第1四半期の連結業績(2022年9月1日~2022年11月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年8月期第1四半期	3,039	△0.0	617	△12.4	617	△12.4	418	△10.2
2022年8月期第1四半期	3,040	9.2	705	22.8	704	9.6	466	7.9

(注) 包括利益 2023年8月期第1四半期 418百万円(△10.2%) 2022年8月期第1四半期 466百万円(7.9%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年8月期第1四半期	23.52	23.49
2022年8月期第1四半期	26.18	26.16

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年8月期第1四半期	24,151	21,631	89.5
2022年8月期	24,241	21,569	88.9

(参考) 自己資本 2023年8月期第1四半期 21,613百万円 2022年8月期 21,544百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年8月期	—	0.00	—	20.00	20.00
2023年8月期	—	—	—	—	—
2023年8月期(予想)	—	0.00	—	26.00	26.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年8月期の連結業績予想(2022年9月1日~2023年8月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	6,145	0.8	978	△27.5	978	△27.5	672	△25.9	37.74
通期	12,500	2.0	1,810	△24.4	1,810	△24.4	1,255	△21.5	70.49

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
新規 — 社(社名) — 、除外 — 社(社名) —
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年8月期1Q	17,809,632株	2022年8月期	17,804,032株
② 期末自己株式数	2023年8月期1Q	137株	2022年8月期	137株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2023年8月期1Q	17,804,818株	2022年8月期1Q	17,803,895株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社グループが現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社グループとして約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計方針の変更)	8
(追加情報)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における我が国経済は、ウィズコロナの下で、各種政策の効果もあって、景気は緩やかに持ち直しています。ただし、世界的な金融引締め等による景気の下振れリスク、物価上昇、供給面での制約等、引き続き金融資本市場の変動等の影響を注視する必要があります。

当社を取り巻くBSデジタル放送業界は、デジタル放送受信機の普及に伴い、視聴可能世帯数の割合は全世帯の77.1%（「BS世帯普及率調査」(株)ビデオリサーチ調べ）で推移しております。衛星放送メディア関連の広告費は、1,209億円（前年比103.1%）となり、そのうち70%強は当社を含む無料BSデジタル放送事業が占めております。（「2021年 日本の広告費」(株)電通調べ）

このような状況下、当社は「質の高い情報を提供することで 人々に感動を与え 幸せな社会づくりに貢献します」を経営理念として中長期的な成長を実現するため、コンテンツの価値最大化を目指しております。放送事業収入だけではなく番組に関連した配信ビジネスやイベントの実施といった新規事業開発に取り組みながら、効果的な広告宣伝、広報施策を実施いたしました。

[レギュラー番組]

10月の番組改編では、「好きが深まる。好きが広がる。」をテーマに、タレントの中山秀征さんが全国の「小京都」とよばれる街並みを歩き、楽しく1万歩を目指す、2022年6月放送の特別番組『中山秀征の楽しく1万歩！小京都日和』をレギュラー番組として放送を開始いたしました。また、2つのレギュラー番組のリニューアルも実施。『八代亜紀いい歌いい話』では、歌手の福田こうへいさんを新たにサブMCに、歌唱パート、トークパートの一層の充実にも努めました。(株)京都放送との共同制作番組『京都浪漫 悠久の物語』では、番組の語りにも島本須美さんをお迎えし、豊かで癒される教養・娯楽番組として内容の強化にも努めました。

また、MCのなすなかにしさんと、スピラ・スピカの幹葉さんが毎週ゲストを迎えて楽しくゲームをするバラエティ番組『なすなかにしのゲームキングダム』を9月より放送開始。不定期放送番組として、京都を舞台に俳優の角野卓造さん、近藤芳正さんが呑み歩く、新感覚グルメエンターテインメント番組『おやじ京都呑み』の放送も開始いたしました。そのほかの番組も引き続き内容をより一層充実させて放送いたしました。

『ディスカバリー傑作選』では、『エクストリーム住宅』、『名車再生！』等、様々なジャンルのコンテンツを厳選し放送。ドラマジャンルの拡充にも努め、日本初放送の中国時代劇『霓裳（げいしょう）～七色に輝く虹の如く～』やBS初放送の韓国ドラマ『僕を溶かしてくれ』、BS初放送で当社初の国内BLドラマ『Life 線上の僕ら』等を放送いたしました。

[特別番組]

スポーツジャンルでは新たな試みを実施しながら、コンテンツのより一層の充実にも努めました。『WBSC U-18 ベースボールワールドカップ』の日本戦を4夜連続放送したほか、『ブンデスリーガジャパンツアー2022 ガンバ大阪vsフランクフルト』の親善試合をテレビ放送と、当社オリジナル動画配信サイト「BS11+（プラス）」での有料の生配信でお届けいたしました。また、競馬発祥の地イギリスで、競馬がどのように生まれ、どんな進歩を遂げて日本へ伝えられたのか丁寧に紐解いていく『ニッポン競馬謎学紀行～ユニオンジャックからの蹄跡～』や、学生柔道界日本一を決める個人戦『2022年度 全日本学生柔道体重別選手権大会』、日本女子ソフトボール「JDリーグ2022 ダイヤモンドシリーズ」の準決勝、決勝の模様をお届けいたしました。更に、今年で4回目の開催となり、過去最多のエントリー数となった『BS11CUP全日本eスポーツ学生選手権大会』の決勝大会を、テレビでの生放送と併せて、BS11+でも生配信でお届けいたしました。

このほか、全国各地にある絶景の裏側に密着した『絶景の仕掛け人』、毎年恒例の(株)京都放送との共同制作番組『京都紅葉生中継2022 ～“キリトリ” 限りある空間を愉しむ～』をお届けいたしました。

[アニメ関連事業]

「ANIME+」枠では、製作委員会参画作品を含むアニメ関連番組を、毎クール約40タイトル放送しております。「アニメプラス(10月より「ガンダムアワー」)」枠では『ガンダムシリーズ』、「キッズアニメ∞(むげんだい)」枠では『ラウド・ハウス シーズン1』等を放送。また当社人気アニメ作品の映画『劇場版 転生したらスライムだった件 紅蓮の絆編』の公開にあわせて『「劇場版 転生したらスライムだった件 紅蓮の絆編」公開記念! ~ここに注目!「劇場版 転スラ」の魅力完全公開スペシャル~』を制作し、放送いたしました。このほか、エンターテインメント情報番組『アニゲー☆イレブン!』、アニメソング番組『Anison Days』等、アニメファンの多様なニーズにお応えできるよう、様々な切り口でアニメ関連番組を放送いたしました。

また10月には、2.5次元俳優の植田圭輔さんと鳥越裕貴さんによる大人気トークライブイベント「植田鳥越 口は〇〇のもと」を主催し、女性を中心に多くの方にご好評をいただきました。このほか、読み聞かせ番組『今日のえほん』は、グループ会社の榊理論社、(株)国土社の児童書を映像化し放送しており、BS11+、公式YouTubeチャンネルでの配信も行っております。

[配信コンテンツ]

当期の重点施策である「非放送分野」の拡大を目的の一つとし、自社制作番組と、その関連コンテンツの配信強化、配信オリジナルコンテンツの制作強化、オンラインイベントの開催等を行いました。

10月には、2022年7月放送の特別番組『万葉びとと令和の物語～中西進とめぐる奈良・世界遺産の旅～』の関連イベントとして、奈良テレビ放送(株)と共催でオンライン講演会「万葉びとのこころと令和への思い」を開催したほか、「報道ライブ インサイドOUT Presents ジャーナリスト養成オンライン講座」の第5回、最終回となる第6回を開催いたしました。

また、今を時めく「ウマ娘」の声優による、GI「天皇賞(秋)」に向けた特別配信コンテンツ『UMAJO会』の第3回の生配信も実施いたしました。

BS11公式YouTubeチャンネルでは、『大人のバイク時間 MOTORISE』、『京都画報』をはじめ、『報道ライブ インサイドOUT 鈴木哲夫の永田町ショートタイム』のレギュラーコーナー『時事芸人ブチ鹿島の直撃! 永田町』や、『偉人・素顔の履歴書』及びアフタートーク『偉人・こぼれ囁』等の自社制作番組とその関連コンテンツを配信。このほか、(株)国土社の児童書を映像化した『歌で聴く絵本「ようかいむら」シリーズ』や『アリのひみつ大図鑑』、(株)文化放送のインターネットラジオ「超!A&G+」とのコラボ企画『転生したらスライムだった件 ~転スララジオ~』等、オリジナルコンテンツを多数配信し、コンテンツを拡充しております。また、BS11公式YouTubeチャンネル等での広告付き見逃し配信に加え、1つの番組を複数のプラットフォームで視聴できるようBS11+、Paravi、FOD、U-NEXTにて定額見放題での配信も実施しております。

[その他事業・マルチ展開施策等]

当期の重点施策である「コンテンツの有効活用による価値最大化」を目的とし、様々な事業、コンテンツのマルチ展開を行っております。

「超!A&G+」とのコラボ企画『ラジオでもはたらく魔王さま!!』では、7月に開設したBS11SHOPでオリジナルグッズの販売を開始いたしました。イベント事業では、SKE48プリマステラによる東京出張公演を実施。イベント当日は、10代~60代までの幅広い年齢層のファンの方々にお越しいただき大盛況となりました。

新たな試みとして、若手ピアニストと人気ヴォーカル・グループを迎えたコンサート『貴公子たちの音楽会』のリアルイベントと生配信を実施。BS11+ではアーカイブ配信もお届けし、多くの方にご来場、ご視聴いただいております。更に、コンサートの模様インタビューVTRを交えたテレビ特別編集版も放送するなど、コンサート、配信、テレビ放送が融合した新たなエンターテインメントとしてお届けいたしました。

今後も放送に加え、配信、その他事業を通してより多くの視聴者ニーズに応えることができるよう、努めてまいります。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は3,039,850千円（前年同期比0.0%減少）となりました。営業利益は617,947千円（前年同期比12.4%減少）、経常利益は617,284千円（前年同期比12.4%減少）、親会社株主に帰属する四半期純利益は418,733千円（前年同期比10.2%減少）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ89,717千円減少し、24,151,467千円（前連結会計年度末比0.4%減少）となりました。主な要因は、棚卸資産が23,454千円増加したものの、売掛金及び受取手形が71,930千円、流動資産のその他に含めて表示している前払費用が26,692千円減少したこと等によるものであります。

当第1四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べ152,378千円減少し、2,519,551千円（前連結会計年度末比5.7%減少）となりました。主な要因は未払法人税等が153,244千円減少したこと等によるものであります。

当第1四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ62,660千円増加し、21,631,916千円（前連結会計年度末比0.3%増加）となりました。主な要因は、利益剰余金が、前連結会計年度の期末配当356,077千円により減少したものの、親会社株主に帰属する四半期純利益418,733千円の計上に伴い62,655千円増加したこと等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年8月期の連結業績予想につきましては、2022年10月7日付の「2022年8月期 決算短信」で公表しました連結業績予想から変更ありません。

なお、業績予想は現時点において入手可能な情報に基づき作成しており、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年8月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	14,456,611	14,449,984
受取手形及び売掛金	2,074,459	2,002,529
棚卸資産	430,350	453,805
その他	122,567	95,914
流動資産合計	17,083,989	17,002,233
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,266,730	2,289,212
土地	4,034,756	4,034,756
その他(純額)	404,755	373,324
有形固定資産合計	6,706,242	6,697,293
無形固定資産	84,219	78,267
投資その他の資産	366,734	373,672
固定資産合計	7,157,195	7,149,233
資産合計	24,241,184	24,151,467
負債の部		
流動負債		
買掛金	625,550	607,462
短期借入金	500,000	550,000
未払法人税等	377,558	224,314
その他	1,045,420	1,014,508
流動負債合計	2,548,529	2,396,285
固定負債		
退職給付に係る負債	99,007	99,270
その他	24,392	23,994
固定負債合計	123,399	123,265
負債合計	2,671,929	2,519,551
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,183,936	4,186,990
資本剰余金	3,517,726	3,520,780
利益剰余金	13,843,269	13,905,925
自己株式	△143	△143
株主資本合計	21,544,789	21,613,552
新株予約権	24,466	18,364
純資産合計	21,569,255	21,631,916
負債純資産合計	24,241,184	24,151,467

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2021年9月1日 至2021年11月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2022年9月1日 至2022年11月30日)
売上高	3,040,745	3,039,850
売上原価	1,431,372	1,495,513
売上総利益	1,609,373	1,544,336
販売費及び一般管理費	904,265	926,389
営業利益	705,108	617,947
営業外収益		
受取利息	0	0
その他	649	385
営業外収益合計	650	386
営業外費用		
支払利息	972	1,029
その他	—	19
営業外費用合計	972	1,049
経常利益	704,786	617,284
税金等調整前四半期純利益	704,786	617,284
法人税、住民税及び事業税	241,107	202,208
法人税等調整額	△2,381	△3,657
法人税等合計	238,726	198,550
四半期純利益	466,060	418,733
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	466,060	418,733

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2021年9月1日 至2021年11月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2022年9月1日 至2022年11月30日)
四半期純利益	466,060	418,733
四半期包括利益	466,060	418,733
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	466,060	418,733
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することとしております。

なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(追加情報)

(会計上の見積りを行う上での新型コロナウイルス感染症に関する一定の仮定について)

当第1四半期連結累計期間における新型コロナウイルス感染症拡大の影響に関する会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定については、前連結会計年度における有価証券報告書の(追加情報)に記載した内容から重要な変更はありません。